

(一) 國內外に於ける一般的状态

世界の資本主義は最近一時的安定の観を呈してゐるが、その安定は決して華
固なものではない。而して此の安定の途に、労働階級の組織化は益々甚しくなつ
てゐる。現にドイツ、フランスの如く、一日十時間乃至十二時間労働を強せり
と、賃金は従前に比べて、激減に到せ下りてゐる。

何故、斯る組織化の甚増を激減の労働者は甘受してゐるかと言ふに、故
等各国の労働組合の多くは、幹部が政府資本家に買収されたり、又は極端に官
僚化し、協調化して労働組合本来の機能を失はれ、組合内部の活動分子を有産
党と云々の世宣傳を用ひて、除名分裂を致へて、労働組合が独断に統一さ
れてゐない爲に、組織労働者の眞の威力を發揮する事が出来なかりである。

(二) 國內に於ける一般的状态

日本に於いては、亦昨年下半期頃より、資本主義は安定の観を呈してゐる。
然しなかり、之れ又、労働階級を強制的に採取した水はこぞ奮らされたものに
外ならず、兎も、漸くは改められた失業者の大群は、職を得ること難はず、